



□□ \_\_\_\_\_ □□

1. ニュース…300万円の寄付は「今井茂雄基金」として用途を考える

□□ \_\_\_\_\_ □□

6月4日の「リバティ・パブ」臨時号でお知らせしましたが、ネットワーク会員の東京・双文社の今井茂雄社長が、ネットワークに300万円の寄付をしていただきました。今井さんは元JaGra会長を務め、私たちのNPOとJaGraとの良好な関係を築き上げてくれた方です。

今回の寄付は「自費出版ネットワークの発展のために」と私財から出していただいたものです。

今後の使い道は現在理事役員で検討中ですが、この300万円の寄付受領のセレモニーを10月6日の2018日本自費出版フェスティバルにて行う予定です。

□□ \_\_\_\_\_ □□

2. ニュース…第31回自費出版アドバイザー研修会講師決定

□□ \_\_\_\_\_ □□

自費出版物の流通を受けてくれる取次があるのか…?!

一粒社の都築会長の紹介で、自費出版物にも前向きなJRC社長の講演が実現しました。

研修会は10/6のフェスティバル前日10月5日（金）午後（時間未定）開催です。

↓

「自費出版本の流通のお手伝いについて」（仮題）  
株式会社JRC（旧人文・社会科学書流通センター）  
代表取締役 後藤克寛氏

□□ \_\_\_\_\_ □□

3. お知らせ……文化賞2次選考会が7/7に開催されます

□□ \_\_\_\_\_ □□

第21回日本自費出版文化賞の1次審査の大詰めを迎えていますが、今月の7日2次選考会が東京小伝馬町のニッケイビルにて開催されます。今回は16人の新たな選考委員が1次選考に加わり、2次選考会にも何人か参加してくれるようです。

□□ \_\_\_\_\_ □□

4. お知らせ…2018日本自費出版フェスティバル

## ボランティアスタッフ募集

□□ \_\_\_\_\_ □□

2018日本自費出版フェスティバルは10月6日（土）に例年と同じ東京のアルカディア市ヶ谷にて開催されますが、自費出版文化に理解があり、当日の運営に協力してくれるボランティアスタッフを募集しています。希望者は9月15日（土）午後の説明会と当日の10月6日（土）に参加できることが条件です。（スタッフジャンパー貸与、昼食代1,000円支給 交通費なし、懇親会無料となります）

□□ \_\_\_\_\_ □□

5. 自費出版事情 … ～アドバイザー便り～No.6

□□ \_\_\_\_\_ □□

第11回自費出版アドバイザー 認定番号No.94  
株式会社 あいわプリント 平間順一

「盲目の俳人M・Yさん」  
市民俳句大会で知りあったMさんは、生まれつき網膜色素変性症で、20年前の65歳のころには新聞が見えなくなって、現在はまったく見えないと言う。

教職を退職後、60歳のころから始めた俳句を、月2回の句会出席、新聞などへの投稿続けている。  
句会への投句は、ブラインドタッチで入力、音声読み上げソフトで聞きながら作句する。会場にはヘルパーさんが同行し、披講者が次々と読み上げる俳句を聞きながら、良いと思う句を選ぶ。それをヘルパーさんにメモしてもらうという方法でやっているようだ。

見えないと同音異語を勘違いしたり、旧仮名を調べるのも不便だ。しかし、見えないことが、かえって物事を奥深く感じ取ることもでき、良い作品を生み出すこともあるという。  
奥様の陰の協力に感謝しつつ、子や孫に残せるよう、90歳までに随想、書簡、俳句、川柳などをまとめた本を出版するのが夢だそうです。  
その明るく、前向きな姿勢には勇気をもらう。

「せせらぎの音符ほつほつ冬を脱ぐ」 M・Y

「この辺り福寿草ねと妻の声」 M・Y

□□ \_\_\_\_\_ □□

☆ 知つとこ 松本 ☆ その2

□□ \_\_\_\_\_ □□

今回の松本だよりは、松本市の歴史についてです。

松本の歴史は古く、市内の台地の数か所に3000年以上前の遺跡があり、

人が居住していたことが窺えます。  
近くにある和田峠（江戸時代に整備された中山道の峠の一つ）が  
現在でも日本で有数の黒曜石の産出地であることから、石斧や鏃として  
豊富に利用できたことが集落の繁栄に繋がったものと思われています。

さて松本といえば松本城が有名ですが、前身を深志城といい、  
信濃守護であった小笠原氏の家臣・島立（しまだて）氏によって  
築城されました。  
主な城主は小笠原氏、石川氏、松平氏、堀田氏、水野氏、松平氏（戸田氏）  
と遷り変わっています。  
信濃は、武田氏・上杉氏という勇猛果敢な武将の領地に挟まれた宿命で、  
侵攻と奪還が繰り返されました。  
武田氏滅亡後は最終的に徳川家康の後援を得た小笠原貞慶が奪還し、  
松本城と改名されたのです。  
がその貞慶も後に家臣として仕える豊臣秀吉の怒りに触れて  
改易・追放されてしまい、松本の所領は石川数正に与えられました。  
…というような経緯で城主・藩主が入れ替わり立ち替わりした訳です。

勢力抗争に暇がない上司達に挟まれて右往左往するサラリーマン武将の  
ドラマにはなっても、壮大な大河ドラマには不向きなお城です。

でも市民はこのお城が大好きですよ。

今回はその松本城の内部についてお話したいと思います。

\*\*\*\*\*

★あとがき

自費出版事情のアドバイザー便りは、北海道からです。  
「北の国から」ですね。  
もう何十年も前になりますが、この北の国からの舞台となった富良野を  
ラベンダーの咲く7月中旬に訪れたことがあります。  
紫色の絨毯、優しい香り…忘れられない景色です。

松本の歴史…勉強になります。その地を訪れるのに歴史を知っているか  
否かで随分味わいが変わってきますよね。

北海道やら、松本やら…気持ちは早くも夏休み。。。  
「暑さ」だって楽しみたいです。  
でも熱中症にお気をつけて、元気にお過ごしください！

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

---

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら  
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

